

効果報告レポート

【事業者名】

株式会社Libry

【ツール名】

Libry / Libry for Teacher

【ツールの機能分類】

学習支援・授業支援 (LMS)

2023年2月



Libry

教科書・問題集・参考書をデジタル化し、生徒・教員双方に新しい学習体験を提供

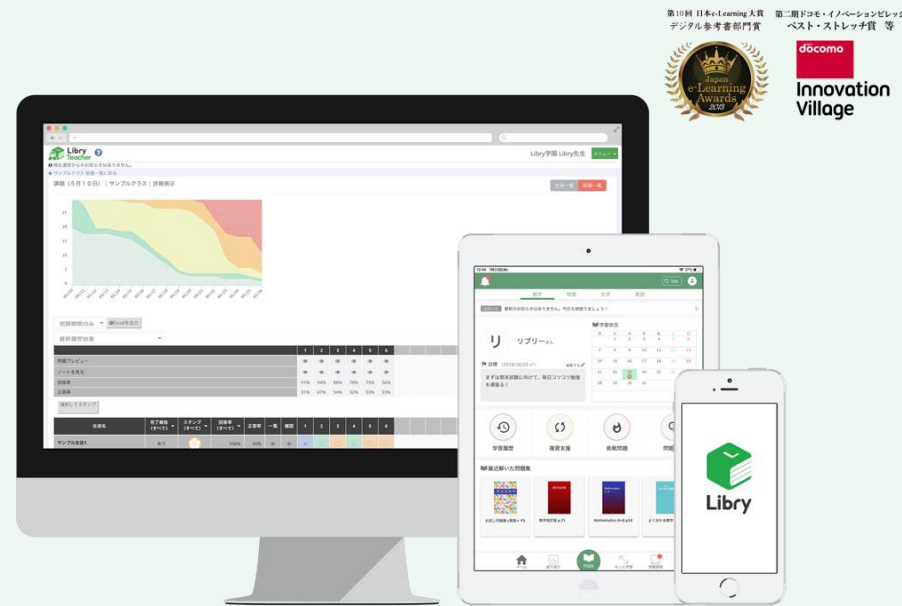


- 全国**1000**校以上に提供！
- 対応書籍は**260**冊以上！
- **信頼ある出版社**の教材をデジタル化！
- **AIドリル機能**で個別最適化学習を実現！

書籍セット購入価格 一冊当たり**550円**（税込）～

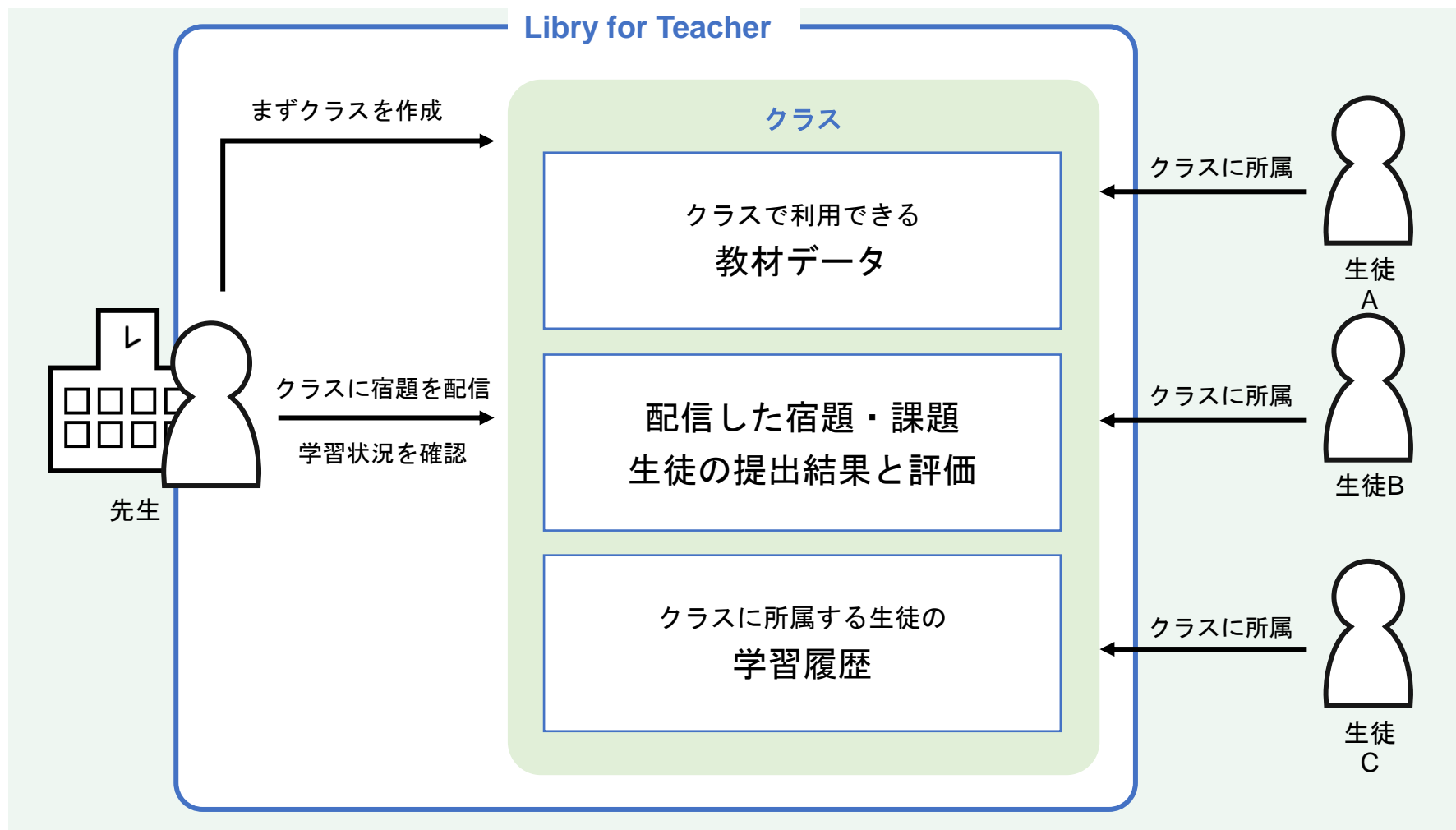
（アダプティブラーニング）

生徒の「**個別最適化学習**」と先生の「**働き方改革**」を実現。



■ EdTech ツールの概要

Libry for Teacherを用いて「クラス」を作成し、「クラス」の生徒へ宿題を配信したり、その状況を確認・分析したり、学習の状況、学習履歴を確認することができる。



■ 学校等教育機関の抱える課題

- ① （先生の課題） 業務量が多く、生徒個別に学びを提供出来ていない。
- ② （生徒の課題） 授業で使う教材の量が非常に多く、嵩張る、等等。

【実際の声】

「タブレット・教科書・資料集と持ち物が多くなってしまい、生徒が活動する机の上が煩雑になってしまい、学習を進めるのに苦労が生じていた。」（先生1）

「教材研究の中でも、黒板に掲示する問題文や図形、グラフなどの作成にかなりの時間を取られていた。」（先生2）

「個人でのフィードバックが全体授業では難しく、個々のレベルに合わせた演習が行えなかった。どうしても全体の平均を見て、問題のレベル設定を行わざるえないものであった。そのため、成績が上位層の生徒には解きやすく、下位層の生徒には難解な問題を日々こなしているようすが見られた。」（先生3）

活用事例の概要

活用の流れ

1

**先生はクラス全体に課題を配信。
生徒は家庭で演習を実施・提出。**

授業の中で課題を配信し、生徒には家庭で取り組んだノート写真と一緒に解答結果を提出（送信）してもらいました。

2

**先生は生徒の解答・正誤状況をLibry上で確認。
必要に応じた追加課題配信を実施。**

生徒が解答結果を入力してくれるだけで、手軽にクラス全体の正答率、個別の正誤状況がわかるので、個人ごとの情報を基に課題をカスタマイズ&個別生徒のフォローを行いました（特に正答率低い生徒へのフォロー、追加課題の提示など）。

その他

- ・スマホでログインできるので、操作の指導を省ける。
- ・印刷の手間が減る。
- ・授業毎に問題を整理できる。
- ・使えば使うほど苦手がわかり、復習しやすい。

3

「個別最適化学習」と「先生の業務軽減」を実現！

家庭学習で問題を解かせる上で、授業の内容毎に問題を選んで、出題する事ができる。この機能を用いて、習得学習における生徒の「わからないところだけを復習する活動」を強化すること、勉強効率を上げた。



The screenshot shows the Libry Teacher interface. At the top, there is a logo for 'Libry Teacher' and a link to 'ヘルプページを見る' (View help page). Below the header, there is a message: '現在運営からのお知らせはありません。' (There are no notices from the management at the moment). The main content is a list of assignments, each with a row of icons (person, envelope, document) and a blue hexagonal button labeled '数学' (Math). The assignments are:

Assignment	Grade
1-1数学	中学1年!
1-2数学	中学1年!
数3 MK	その他
3年1組R4	中学3年!
3年2組R4	中学3年!
数1A	中学1年!
数1B	中学1年!



■ 補助事業において実施したサポート内容

サポート内容

1 導入研修

導入にあたり、各学校の先生に対してオンライン研修を実施。Libryの基本的な使い方や効果的な利用方法などをご説明しつつ、質疑応答で導入に向けた懸念点の解消を行った。

2 導入後の定期サポートミーティング

各学校の先生と定期でミーティングを実施。実際に導入してお困り事が無いかを確認しつつ、Libryの活用データなどを提示。より学びを促進する方法を提案した。

3 (随時) 問合せ内容への対応

日々発生するトラブルやニーズに対して、担当より随時回答。必要に応じたオンラインサポートを実施して解決を行った。

The collage consists of several elements:

- Top Left:** A bar chart titled "導入校数の推移" (Trend of the number of schools that introduced Libry) showing an upward trend from 2017 to 2020, with a callout for "n1000e" in 2020. A circular gauge shows "92.3%" with the text "ムリブリーを継続して利用したい!" (I want to continue using MuriBuri!). Below the chart, it says "2017年のサービス提供開始以来、日本全国の学校でご利用いただいています。" (Since the start of service provision in 2017, we have been used by schools nationwide).
- Top Right:** A video call window showing a man, identified as "大木 亮太" (Ryota Ohki).
- Middle Left:** A flowchart titled "デジタル教材プラットフォーム「Libry」活用フロー" (Libry Usage Flow). It shows a cycle between "Student" and "Teacher". The Student side includes: "紙のノートとペンを使う学習スタイルはこれまで通り!" (Learning style with paper notes and pens is the same as before!), "生徒一人ひとりに合った問題をICTでレコメンド!" (ICT recommends problems suited to each student), and "紙の問題集を持たなくてよいため通学カバンが軽くなる!" (Since you don't need paper problem sets, your school bag becomes lighter!). The Teacher side includes: "紙とICTのいいとこ取りで、いつもの問題集がパワーアップ!" (Combining the best of paper and ICT, your usual problem sets are powered up!), "管理ツールで宿題の配信も回収も簡単!" (With management tools, homework distribution and collection are easy!), "リアルタイムで生徒の学習状況が確認できる" (You can check students' learning status in real-time), and "いつもの問題集だから授業内容はこれまで通り!" (Since it's your usual problem set, the lesson content is the same as before!). The flow involves "ダウンロード" (Download), "配信" (Distribution), and "配信届出" (Distribution notification).
- Middle Right:** A video call window showing a woman, identified as "今泉 真季" (Maki Imaizumi).
- Bottom Right:** A video call window showing a man, identified as "田後 高士" (Takashi Tanaka).
- Bottom Center:** A small video call window showing a person's head, with the "yidiJ" logo below it.

【導入実績】

ライセンス発行数 ・ ・ ・ 2,171名
(生徒1,985名、教師186名分)

●田川市教育委員会

中央中学校、金川中学校、伊田中学校、鎮西中学校、
田川中学校、後藤寺中学校、弓削田中学校、猪位金学園

●東大和市教育委員会

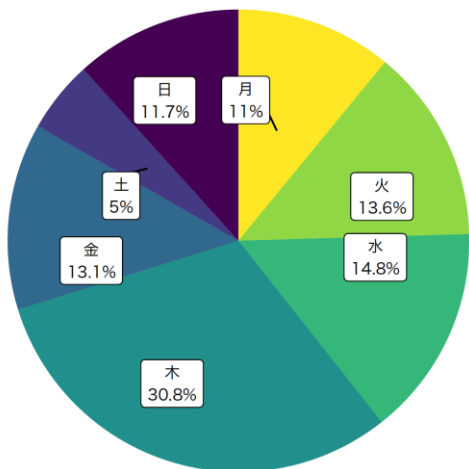
第二中学校、第三中学校

(合計2自治体、10校)

EdTechツールによる活用効果

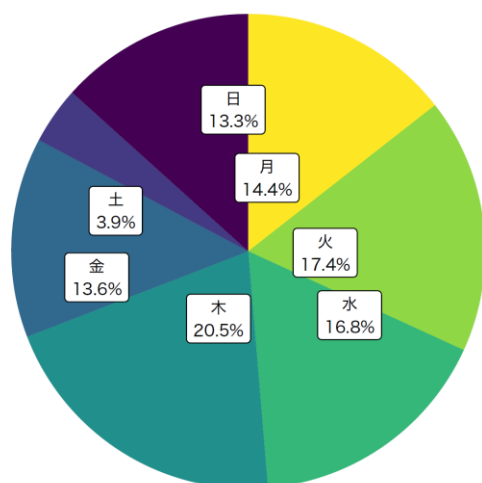
曜日ごとの演習内訳 (東大和市)
科目：理科

794人

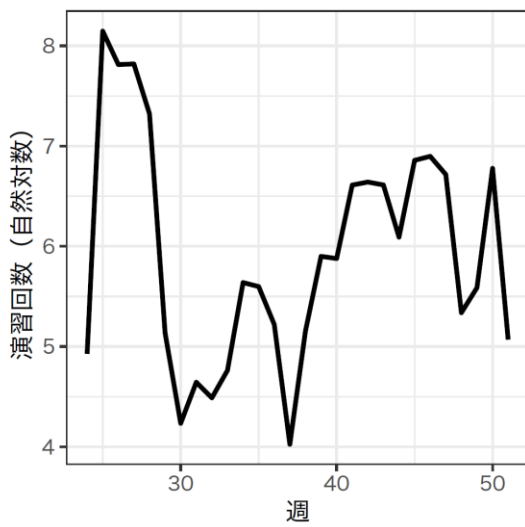


曜日ごとの演習内訳 (福岡県田川市)
科目：数学

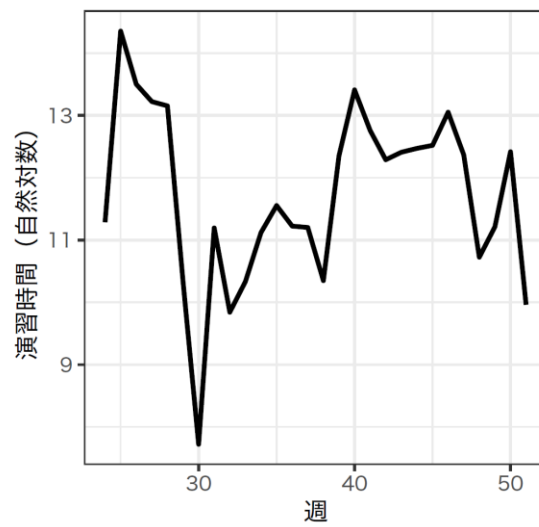
1203人



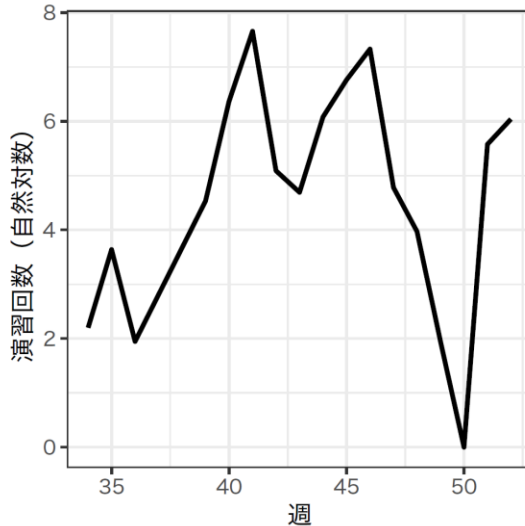
週ごとの演習回数 (福岡県田川市)
科目：理科



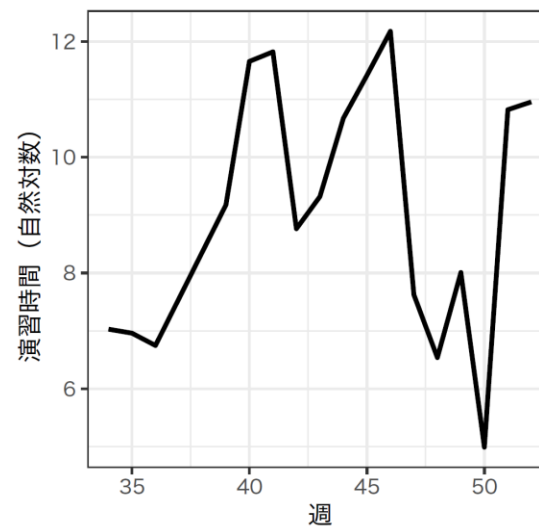
週ごとの演習時間 (福岡県田川市)
科目：数学



週ごとの演習回数 (東大和市)
科目：理科



週ごとの演習時間 (東大和市)
科目：理科



【量的分析の結果・考察】

授業日以外の曜日でもデジタル教科書を自主的に利用している生徒がいることが確認された。また、定期テスト直前の学習時間の増加を確認した。

つまり「課題1：生徒個別に学びを提供出来ていない」を解消し、生徒の自主的な学習を支援したと言える。

■ EdTechツールを活用した児童・生徒・教員のコメント感想等



[教員1] 教室での授業において、単元が終わった内容の復習問題・演習としてLibryを活用した。また、宿題として範囲を設定し、個々に取り組みを行わせた。自主的にデジタル教科書を利用している生徒もおり、生徒自ら活用方法を広げている様子も見られた。

[教員2] 良い点として①様々な問題が収録されていて、各自が自分に合った問題を選ぶことができ、その問題が単元ごとや難易度ごとにカテゴライズされていること、②生徒の実施状況や苦手な単元が先生の端末ですぐに確認することができることの2点が挙げられる



[教員3] 1人1台端末のご時世であるので、こういったツールの活用は働き方改革と生徒の学力向上について相乗的に効果が表れていると感じる。問題文や図形、グラフなどの提示がすぐにでき、教材作成の時間の短縮や経費の削減につながった。問題集もあるので、その作成分の労力も省けた。

これらの回答結果から、教師の「業務時間」を軽減しながら、「生徒の学習状況や苦手箇所を把握する活動」を支援して、生徒の自主的な学習を促進することが出来たと言える。

課題 1：個人情報登録方法

自治体の個人情報保護に対する姿勢が厳密な場合、各学校の生徒情報を弊社のデータベースに登録することが煩雑になりがちであった。今後の課題として、システムの改良を行い、各学校からの情報登録をスムーズ化することがある。

課題 2：各学校のICTツールの使用制限状況

自治体が情報機器・端末の持ち帰りを禁止しているケースでは、生徒が自宅で自ら学ぶ為にICTツールが使えない例があった。今後の課題として、ツール導入前に自宅学習を目的とする「自宅での使用許可」を確認する必要がある。

社名：株式会社Libry

代表取締役：後藤 匠

設立：2012年5月

所在地：〒101-0032 東京都千代田区岩本町3-9-13 岩本町寿共同ビル 4F

社員数：14名(2023年1月現在)

資本金：200,000,450円(2023年1月現在)

売上高：148,234,325円 (22/2月期実績)

<問合せ窓口>

株式会社Libry 開発部 リサーチフェロー 佐久間大

MAIL：d.sakuma@libry.jp